

AIオンデマンド型交通

を軸とした

コミュニティバスのリニューアル



坂井市 生活環境部 公共交通対策課 主事 平尾 優頼

1. 福井県坂井市とは

坂井市の概要

～ 心から、笑顔になれるまち坂井市 ～

- ・福井県の北部に位置する。
- ・平成18年に三国町・丸岡町・春江町・坂井町が合併して誕生。
- ・西は日本海、東は勝山市、北はあわら市・石川県、南は福井市・永平寺町に面する。
- ・南北に約17km、東西に約32kmと東西に長く、総面積は209.67km²。
- ・市面積の約64%を田畑や山林、約12%を宅地が占める。
- ・令和2年10月1日時点の人口は88,481人で、福井県全体766,863人の約11.5%を占める。
- ・平成17年までは一貫した人口増の傾向にあったが、近年は人口減の傾向にある。



坂井市の人口と世帯数と面積

項目	三国町	丸岡町	春江町	坂井町	計
人口 (人)	20,176	30,728	25,152	12,425	88,481
世帯数 (世帯)	7,420	10,718	9,094	3,835	31,067
面積 (km ²)	46.42	107.36	24.43	31.70	209.67

資料：令和2年国勢調査・全国都道府県市区町村別面積調

坂井市の人口と世帯数の推移



資料：令和2年国勢調査

1. 福井県坂井市とは



東尋坊



三国祭



坂井平野



丸岡城



越前がに



織ネーム（越前織）



帯のまち流し



三国花火



ゆりの里公園



竹田のしだれ桜

1. 福井県坂井市とは

交通事情



鉄道

JR北陸本線(2駅)
えちぜん鉄道(9駅)
※2024. 3に北陸新幹線開業予定

路線バス

約25系統が運行

タクシー

市内を2事業者が運行

主要道路

東部…北陸自動車道、国道364号
西部…国道305号
中部…国道8号

コミュニティバス

コミュニティバス「ぐるっと坂井」 (H21. 9~R5. 9)
コミュニティバス 木部ルート (R 5. 10~)

AIオンデマンド型交通

市内2地区で実証運行 (R3. 5~R4. 12)
市内全域で実証運行 (R5. 1~R5. 9)
市内全域で本格運行 (R5. 10~)

2. 坂井市のまちづくり

輝く未来へ・・・みんなで創る希望のまち
～子どもたちの夢を育む“ふるさと”を目指して～

坂井市都市計画マスタープラン

各地区の個性を伸ばす都市づくり、居住や都市の生活を支える機能の適正な誘導によるコンパクトなまちづくりと地域交通の再編との連携により、新たな魅力の創出、総合的な都市力向上を図る。

坂井市立地適正化計画

～4つの核とネットワークによる安全で持続可能なまちづくり～
4つの市街地の不足する機能を相互補完、各都市機能への適切な誘導。

坂井市地域公共交通計画

【基本方針】

『みんなで使い、まち・暮らしの質を高める持続可能な公共交通の実現』
公共交通をまちづくりの社会基盤として考え、市民や行政、交通事業者等の多様な主体との役割分担による公共交通の積極的な改善や活用により、暮らしの質を高める持続可能な公共交通の実現を目指す。

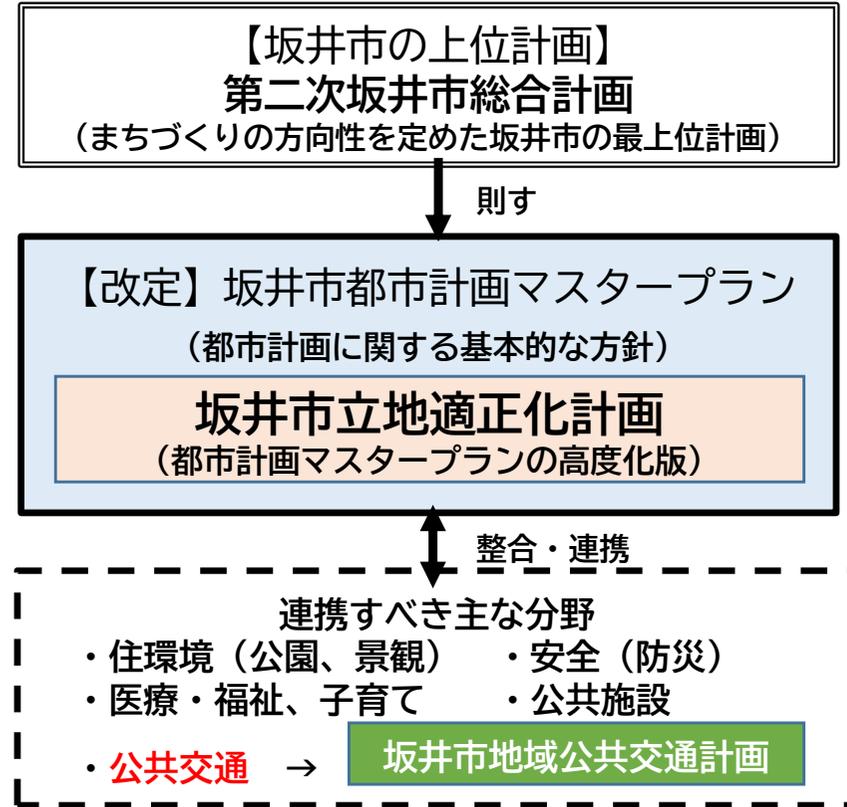
計画目標

- 1 主要駅、バスターミナルを核とした、市内外へのスムーズな移動の実現
- 2 公共交通のわかりやすさの抜本的改善と使いやすさ、親しみやすさの向上による利用増進
- 3 周辺市町を含む交通まちづくりと連携した公共交通環境の充実

指標

- 1 公共交通利用者数の増加
- 2 公共交通の運行に関する収支率の向上
- 3 公共交通に関する行政負担額
- 4 公共交通網の整備・充実に関する満足度の向上
- 5 公共交通に乗る機会の創出

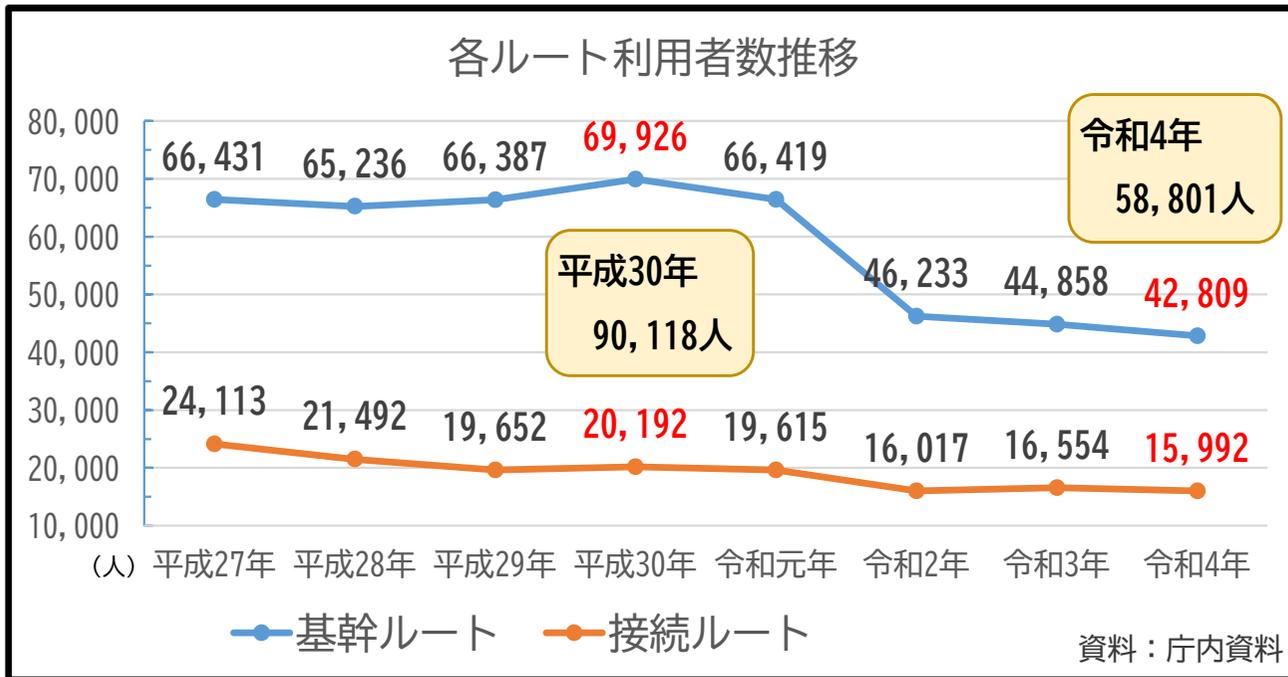
- 1 公共交通利用者数の増加
利用しやすい公共交通網を整備し、利用者の増加を図る
→コミュニティバス利用者数 30%増
- 2 公共交通の運行に関する収支率の向上
運行効率や利便性の向上を図り、収支率の改善を目指す
→コミュニティバス収支率 8.2%→15%増
- 3 公共交通に関する行政負担額
コミュニティバスの収支率の改善に努め、負担軽減を図り、現状値を維持する
→公共交通への公的資金投入額 213,825千円を維持



3. 坂井市コミュニティバスについて

坂井市コミュニティバス（愛称：ぐるっと坂井）（平成21年9月～令和5年9月）

- ・ 定時定路線型のコミュニティバスとして、平成20年9月より実証運行を開始、平成21年9月より本格運行を開始
- ・ 運行開始から運行廃止に至るまで、軽微な変更を除き、大きく変更することなく運行。
- ・ **基幹ルート**（全4ルート）
→市の誕生に合わせて**市内の広域移動手段**として構築
- ・ **接続ルート**（全10ルート）
→旧町時代の福祉バス等の運行ルートを継承する形で運行
- ・ 200円／人・回（65歳以上、小中高生、障がいのある人は100円／人・回）



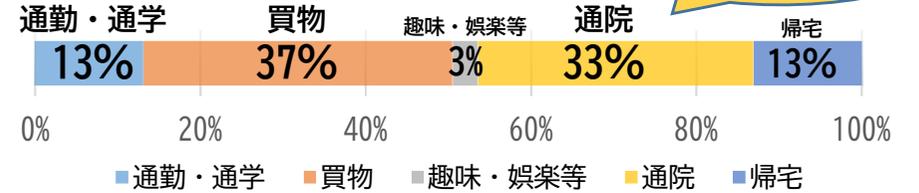
3. 坂井市コミュニティバスについて

コミュニティバス利用状況調査

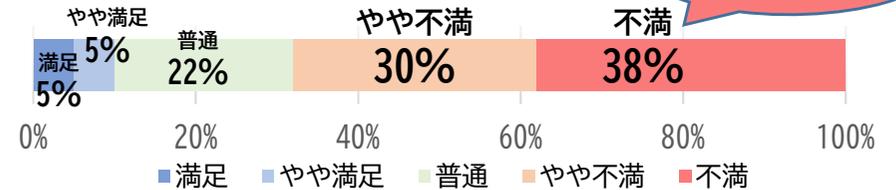
運行概要

項目	基幹ルート	接続ルート
運行便数	6便/日	3便/日
運行曜日	平日のみ	平日のみ
運行時間帯	6:00~21:00	7:00~17:00
運行範囲	市内広域運行	旧町内を運行

利用目的

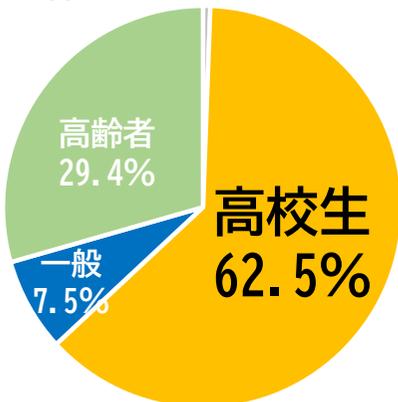


利用満足度

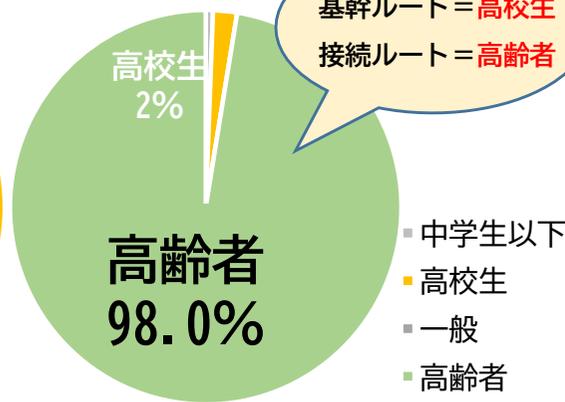


利用者構成

基幹ルート



接続ルート



運行経費・収支率



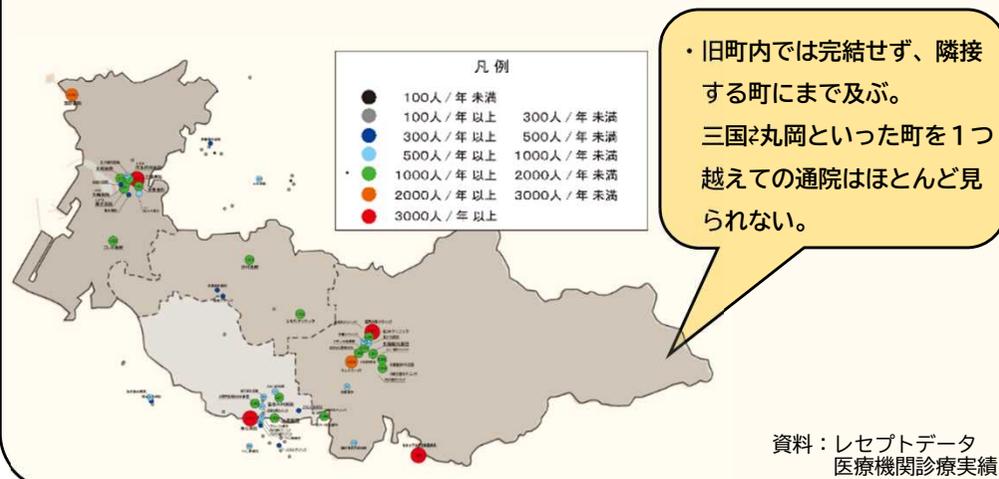
資料：庁内資料

※利用者構成、利用目的、利用満足度：令和元年度0D調査、利用者アンケート

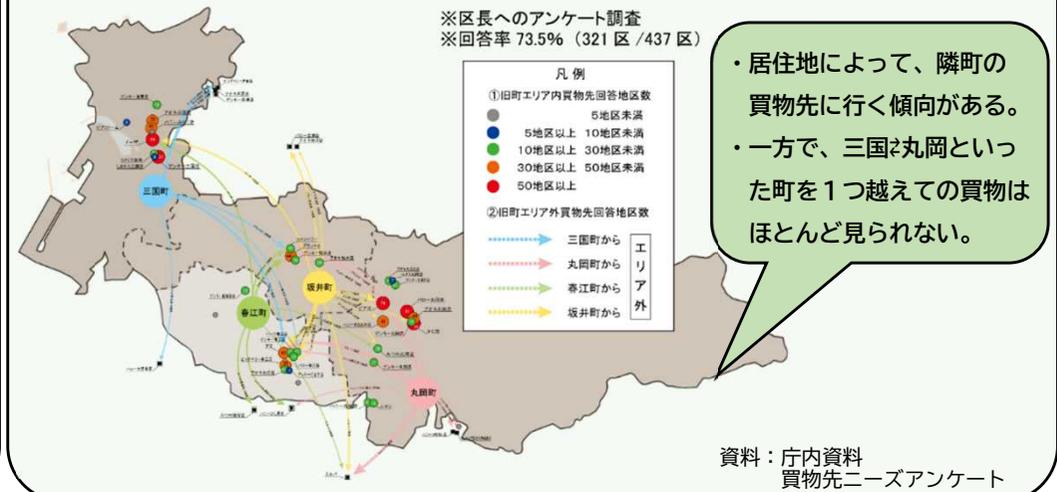
3. 坂井市コミュニティバスについて

データを活用した移動ニーズの分析

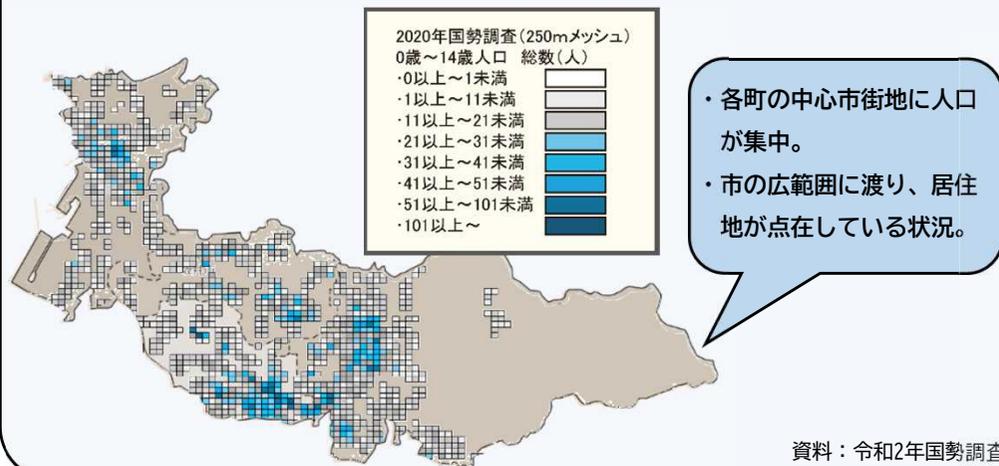
1. レセプトデータ（通院先ニーズ）



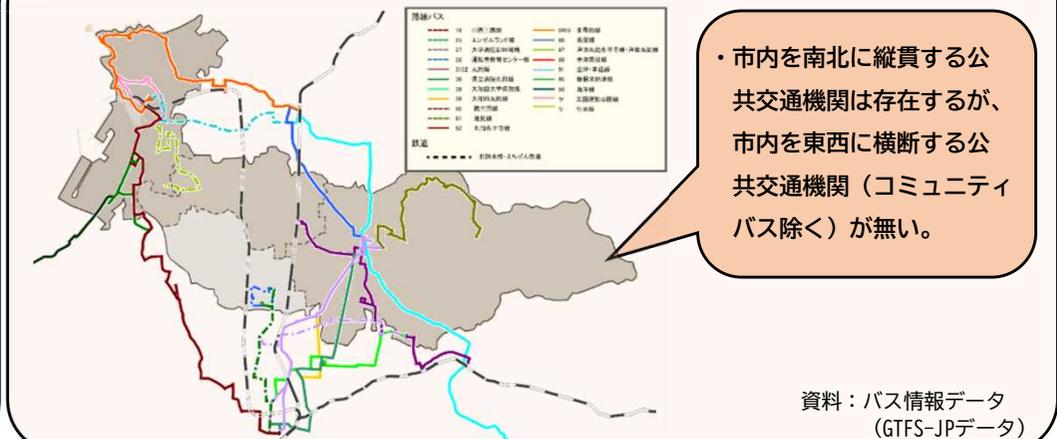
2. 区長アンケート（買物先ニーズ）



3. 統計データ（潜在的な通学利用者の把握）



4. オープンデータ →（交通空白地の把握）



4. コミュニティバスのリニューアル

公共交通サービス・リニューアル計画

1. 目的

人口減少、少子高齢化を踏まえ、**交通弱者の日常**に寄り添った**交通網の整備**が必要であり、さらに**利用者増**に繋がるよう**コミュニティバスの再構築**を目的とする。

2. 考え方

- ①コミュニティバス（市）、交通事業者（民間）がそれぞれの**役割を明確**にすることで、**共存**しつつ、市民の**利便性を向上**させる仕組みを構築する。
- ②現行の交通事業に係る**行政負担を維持**しつつ、仕組みを変えて**利便性・効率性の向上**を図る。

3. 方針

(1) コミュニティバス基幹ルート

→現在の周遊するルートから**直線的・広域的**なルートとする
 現行6便を**8便に増便**し、土日祝日の運行も目指す。
 ルート再編とともに**路線バス化**し、事業主体の民間移行へ**国や県の補助対象路線**とし、**市の財政負担軽減**を図る。

(2) コミュニティバス接続ルート

→現在の定時定路線型の運行から区域内を予約内容に応じて**乗合運行するAIオンデマンド型交通**へと切り替え、市民の**日常生活に必要な近距離移動手段**の確保を目指す。

区分		主な目的	主なターゲット			
			高齢者	小中学生	高校生	現役世代
コミュニティバス	基幹ルート	市内移動 (通勤・通学)			◎	○
	接続ルート	近距離移動 (通院・買い物)	◎	○		
路線バス・鉄道		広域移動 (通勤・通学・レジャー)	○		◎	◎
タクシー		広域移動 (通院・買い物・レジャー)	○			○

リニューアル内容

【路線バス】
 ルートを再編・より広域的に
 土日祝日運行、増便を目指す

【AIオンデマンド型交通】
 停留所を増設、運行範囲の拡大
 利便性・効率性の向上

AIオンデマンド型交通の
 利用状況を鑑みて再編を検討

観光需要により特化

**行政
 負担額
 維持！**

※導入に係る
 イニシャル
 コスト除く

4. コミュニティバスのリニューアル

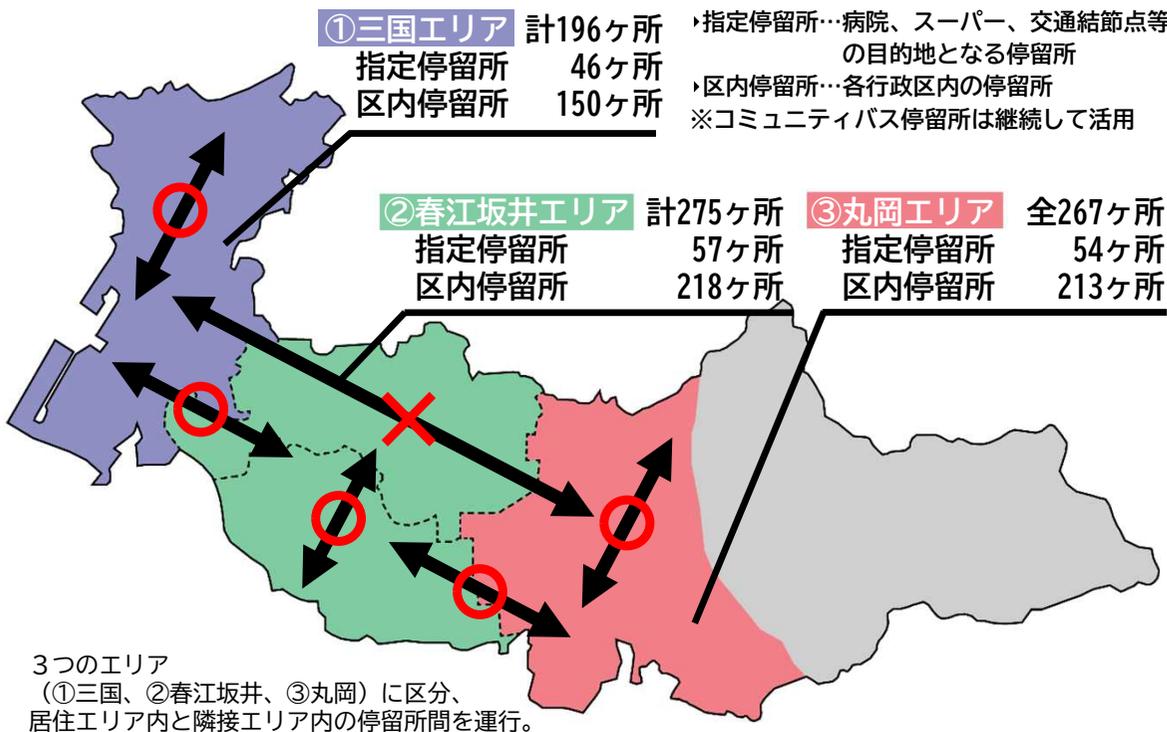
コミュニティバス接続ルートに代えてAIオンデマンド型交通を導入（令和5年1月13日～）

利便性の高い公共交通の実現

好きな時間に行きたい場所へ

車両の稼働率の向上
遊休時間の削減

効率的な車両運行



項目	コミュニティバス 接続ルート	AIオンデマンド型交通
運行方法	定時定路線型	区域運行（停留所間を運行）
運行便数 運行時間帯	3便/日（平日のみ）	8:00～17:00（平日のみ）
運行車両 運行台数	中型バス 1台 ワゴン車 4台	タクシー車両 8台
運行範囲	主に旧町内を運行	居住するエリア内と隣接する エリアの停留所間を運行
停留所数	390ヶ所 (全10ルート合計)	738ヶ所 (全3エリア合計)
運賃	一般 200円/回 高齢者 } 100円/回 学生 } 障がい者 }	一般 500円/回 高齢者 } 300円/回 学生 } 障がい者 }
予約方法	予約不要	電話または スマートフォンアプリ

【狙い】

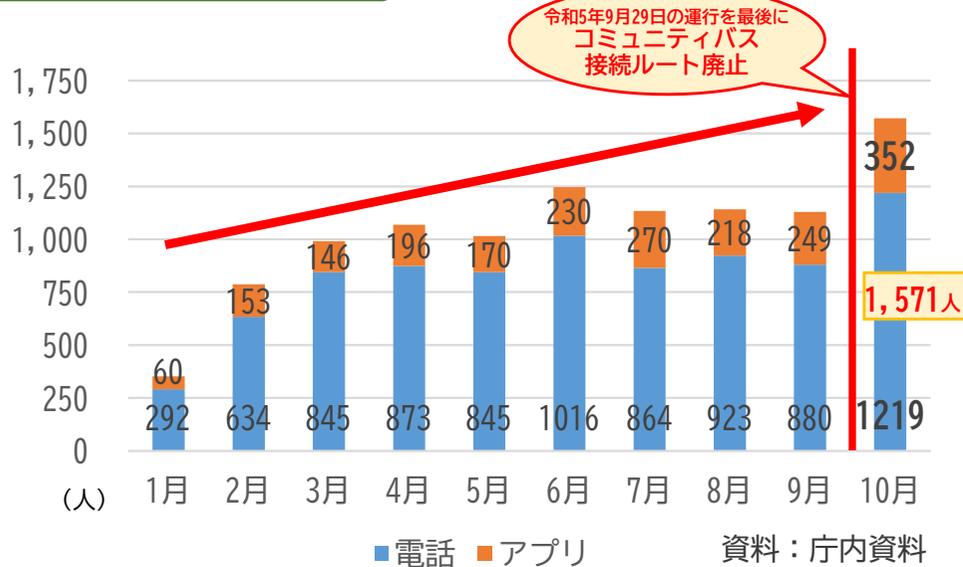
日常生活に必要な**通院**や**買い物**をする際の**近距離移動**を支える交通手段として、**隣接するエリア内までの運行区域**を設定し、**利便性・効率性**の向上を図った。

- POINT① ルート運行ではないため、停留所の移設が容易に行える。
→社会情勢に合わせた交通サービスの提供が可能に
- POINT② 市内どこでも同様のサービスの利用が可能になる。
→公平性
- POINT③ **日常生活に必要な移動手段を確保。**
→免許返納促進、高齢者の交通事故予防

4. コミュニティバスのリニューアル

AIオンデマンド型交通の利用実績 (令和5年1月13日～令和5年10月31日)

予約方法別 利用者数



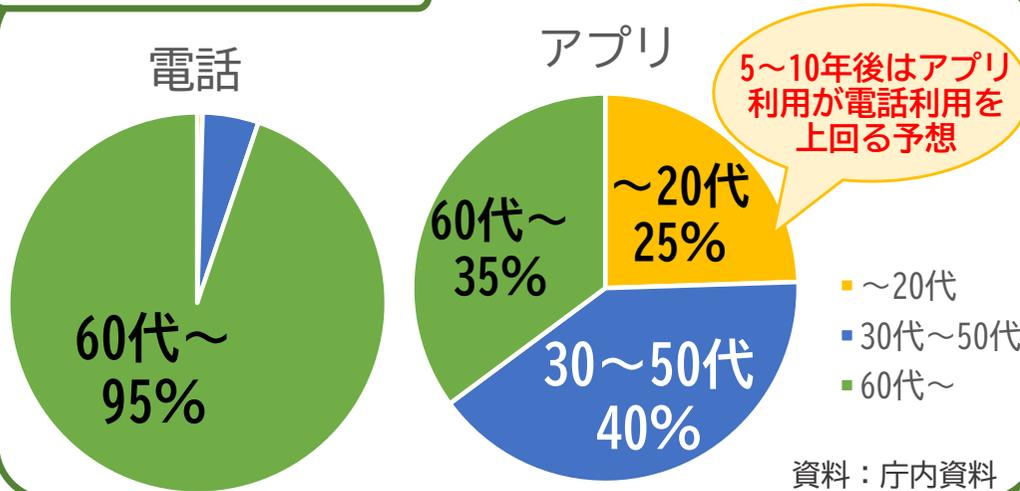
10月の月間乗客人数で比較すると

・コミュニティバス接続ルートの場合・・・
令和4年10月 **1,454人** (72.7人/日)
→年間乗車人数 **15,992人** (令和4年度実績)

・AIオンデマンド型交通の場合・・・
令和5年10月 **1,571人** (74.9人/日)
→年間想定人数 **約19,000人** (約20%増)

※利用者数は毎月増加傾向、来年度には30%増に到達見込み。

予約方法別 年齢層



利用者の声 (説明会時間き取り)

【良い点】

- ・家族に気兼ねなく出かけられるようになった。
- ・好きな時間に使えて、とても助かっている。
- ・子どもの送迎にも利用しています。
- ・自分の世界が広がった。

外出機会や
生きがいの
創出

【改善点】

- ・予約受付時間、運行時間を拡充して欲しい。
- ・予約の電話が繋がりにくい。
- ・土曜日にも運行して欲しい。
- ・他市町へも停留所を設置して欲しい。

改善検討

4. コミュニティバスのリニューアル

コミュニティバス基幹ルートを再編・路線バスに切り替え（令和5年10月1日～）

周遊ルートから直線ルートへ

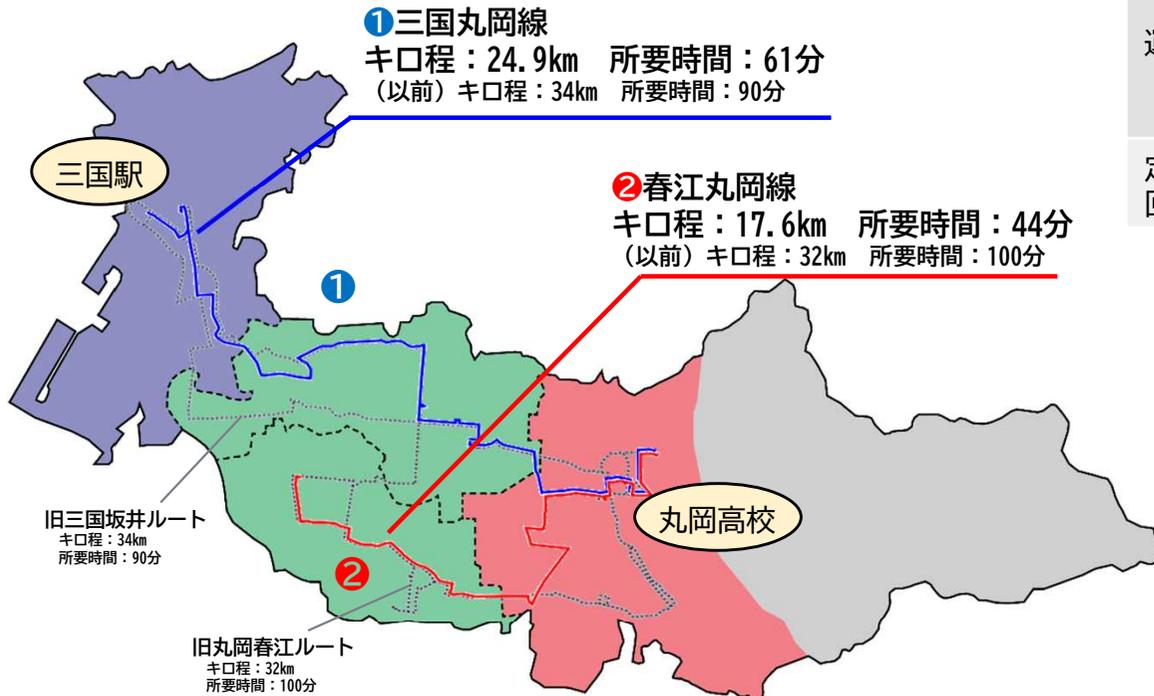
今までは
三国駅から丸岡高校まで約**75分**
これからは
三国駅から丸岡高校まで約**40分**
→約**35分**の短縮へ
(各鉄道時刻を基準に運行)

最短で目的地に

国や県の補助対象路線 土日祝日運行・増便の実現

便数 **6便**→**8便**に
運行日 **平日**運行→**全日**運行に
→土日祝日も運行することで、
観光需要にも**対応**

鉄道と観光地を接続



項目	コミュニティバス 基幹ルート	路線バス
運行便数	6便/日	8便/日
運行時間帯	6:00～20:00	6:00～21:00
所要時間	周遊ルート 三国坂井ルート 90分 丸岡春江ルート 100分	直線ルート 三国丸岡線 61分 丸岡春江線 44分
運行曜日	平日のみ（※年末年始除く）	全日 運行（※年末年始除く）
運賃	均一料金 一般 } 200円/回 高齢者 } 学生 } 100円/回 障がい者 }	対キ口運賃 170円～500円/回 小児（6～12歳未満） 5割引 障がい者 5割引
定期券 回数券	定期券・回数券 なし	定期券・回数券 あり ※市から定期券購入補助あり

【狙い】

南北に縦貫する公共交通機関は多いものの、**東西に横断**する公共交通機関が無い**ため、新たな路線バス**を運行し、**市内を広域的に移動**する際の利便性の向上を図った。

- POINT① 主に通勤通学利用者をターゲットに、市内県立高校3校と旧町中心市街地ならびに各鉄道駅を接続。
→**市内外への通勤通学**により**便利**な公共交通機関に
- POINT② 潜在的な利用者層を鑑みてルート・停留所の設定
→**長期的な利用者の確保**
- POINT③ POINT①に重点を置きつつ、観光地にも接続
→北陸新幹線開業を見据えた**二次交通の強化**

5. まとめ

『みんなで使い、まち・暮らしの質を高める持続可能な公共交通の実現』

公共交通=まちづくりの社会基盤

1人でも多くの方が利用しやすい
公共交通機関とすべく
各種まちづくり分野と連携して
日々検証を行い、事業を推進していきます。



ご清聴ありがとうございました。